

## 『久喜市子ども読書活動推進計画』の成果と課題について

## 3つの数値目標

## ① 児童書の貸出冊数

数値目標	平成 26 年度 実績	目標値 (平成 32 年度)	平成 30 年度 実績	令和元年度 実績	令和 2 年度 実績
冊数	277,928 冊	278,000 冊	278,074 冊	301,839 冊	161,800 冊

## ② 市立図書館における団体貸出冊数（保育所・幼稚園・子育て支援センター・児童センター・小学校・中学校等）

数値目標	平成 26 年度 実績	目標値 (平成 32 年度)	平成 30 年度 実績	令和元年度 実績	令和 2 年度 実績
団体貸出冊数	4,592 冊	5,000 冊	5,912 冊	5,224 冊	3,909 冊

## ③ おはなしの会（訪問おはなし会を含む）の延べ参加者数

数値目標	平成 26 年度 実績	目標値 (平成 32 年度)	平成 30 年度 実績	令和元年度 実績	令和 2 年度 実績
参加者数	4,778 人	4,800 人	3,716 人	4,215 人	1,770 人

## 第 3 次推進計画の成果

## ■基本目標 I 家庭・地域・学校等における子どもの読書活動の推進

## (1) 家庭・地域における読書活動の推進 《数値目標①》

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響もあり、児童書の貸出冊数は平成 26 年度の実績と比べ 41.8%減少し、目標値を達成することができませんでした。

令和元年度までの実績としては、目標値を達成していました。

家庭・地域における読書活動の推進については、ブックスタート事業や講座等を実施し、保護者に対して子育てに絵本の読み聞かせを取り入れるよう働きかけを行いました。

また、「放課後児童クラブ」への貸出を行い、地域全体で読書活動の拡大を図りました。

## (2) 学校等における読書活動の推進 《数値目標②》

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響もあり、団体貸出冊数は平成 26 年度の実績と比べ 14.9%減少し、目標値を達成することができませんでした。

令和元年度までの実績としては、目標値を達成していました。

学校等における読書活動の推進については、保育所・幼稚園及び子育て関連施設において、読み聞かせ用の絵本等を貸し出し、身近に本がある環境の整備に努めました。学校においては、団体貸出のほか、読書通帳やおすすめの図書リストを配布し、児童生徒に良質な図書と出会う機会を提供しました。

### (3) 図書館における読書活動の推進 《数値目標③》

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響もあり、おはなし会延べ参加者数は平成26年度の実績と比べ63.0%減少し、目標値を達成することができませんでした。

令和元年度までの実績についても、目標値を達成することができませんでした。

図書館における読書活動の推進については、乳幼児に対しては、乳幼児図書コーナーを全館に設置するとともに、赤ちゃんと保護者向けのおはなし会を実施しました。小学生に対しては、学校訪問おはなし会、ブックトーク、団体貸出のほか、新1年生向けブックリストを市内全小学校で配布し、子どもたちに良質な図書と出会う機会を提供しました。中高生に対しては、館内にヤングアダルトコーナーを設置するとともに、中高生向きの電子書籍を収集するなど、読書から遠ざかりがちな中高生への読書推進を図りました。また、おはなし会については、ボランティアと連携しながら実施しました。

## ■基本目標Ⅱ 子どもの読書活動の推進体制の整備と普及活動の推進

### (1) 子どもの読書活動の推進体制の整備

学校図書館との連携については、学校訪問事業を久喜市内の全ての小学校で実施したほか、学校からの依頼を受け、学校図書館ボランティアへの支援を行いました。

ボランティアとの協力・連携については、図書館で活動するボランティアへの機会や情報提供のほか、スキルアップのための研修を行いました。

### (2) 子どもの読書活動の普及啓発の推進

令和2年度については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「子ども読書の日」にあわせたイベントは行えませんでした。今後は、新しい生活様式に対応する普及活動についても検討していきます。なお、令和元年度までは、「子ども読書の日」にあわせて、各館でイベントを開催し、子どもの読書活動への理解と参加を促進しました。

## 課題

- ◆子どもたちの成長に合わせた読書活動を推進していくため、引き続きライフステージ（乳幼児期、幼児期、学童期、少年期、青年期）に応じた支援をしていく必要があります。
- ◆子どもたちが日常生活から読書習慣を身に着けることができるよう、学校や子育て支援施設と一層連携をしていく必要があります。
- ◆子どもたちが自発的に読書できるよう、小・中・高校生のニーズに応えた読書環境の整備をしていく必要があります。
- ◆子どもたちの読書活動を支えるボランティア団体に対して、人材の育成や情報提供等の活動を支援し、図書館や学校と協働の体制を推進していく必要があります。

## 《基本的運営方針の関連項目》

- 方針4 子どもの成長を応援する図書館
- 『子どもたちの読書環境の充実』
  - 『子どもたちの読書活動への支援』
  - 『学校等との連携』